

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ザ・クラシック	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.460	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ザ・クラシック

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ベンチマーク

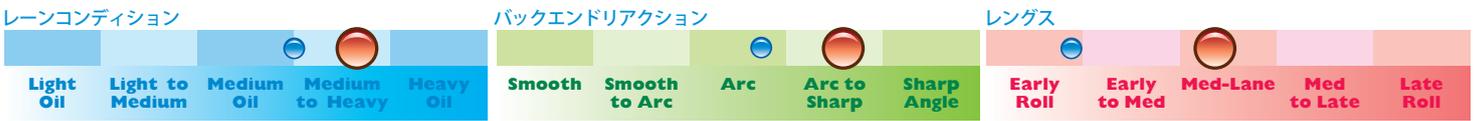
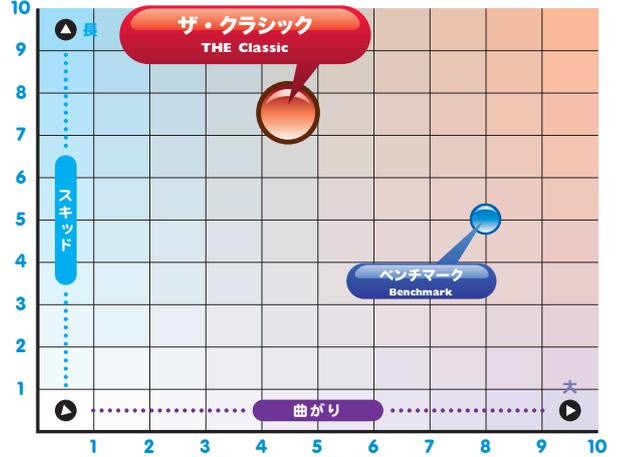
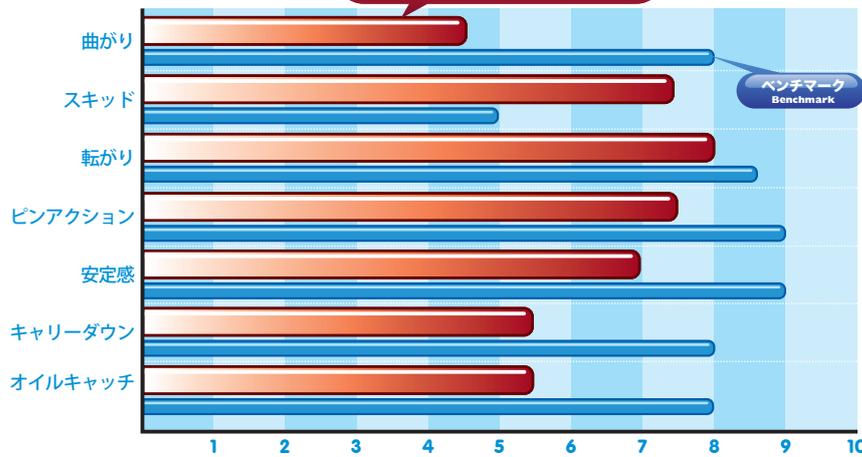
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

コロンビア社からこの度リリースされたTHE Classic。"Classicウレタン"と名付けられたウレタン素材とリサージェンスコアとのコラボレーションです。ウレタン素材のニーズは、オーバーリアクションを避けるためであったり、薄いオイルでもスキッドさせるためだったり、オイルに強いボールが発売され進化を遂げるほどオイルを感じにくかったり、「進化故の弊害」であるとも言えるでしょう。これからウレタン素材のボールを購入する方に推奨したいのが、ウレタン素材のボールはなるべくコア捻じらせ軸移動させたいため、レイアウトは強めに施工すること。フレア幅を出し、常に新しい面をレーンと接地させることは、現代の曲がるボールのレイアウトとは逆行することだと思います。しかしオイルの濃淡に敏感でないウレタン素材の特性を活かしながら幅をとり投球するのであればコアを強く捻じらせる必要があり、ピンヒットまで捻じらせ続けさせる必要があるのです。私はショートのコンドディションや薄いコンディションでウレタンボールを使う頻度は高いのですが、利便性の高い理由の一つとして挙げられるのが過激に反応を起こさないことでしょう。ドライエリアにあたって過激に向きを変えることがなく、緩やかにスムーズに向きを変えてくれることがラインを読みやすくすることと同時に、いとも楽に手前の薄いオイルを乗り越えてくれるからです。「走らさなければならぬ」という遅めのコンディションの宿命をクリアしてくれることを考えると、フランチャイズのコンドディションが薄く短かったり、夜のリーグや大会等で中に入りきってもポケットに届かない思いをされた方には候補として考えるべきでしょう。

特記事項

ベンチマークと同じ旧コロンビアのロゴを使用し、見た目クラシカルに仕上げているので"THE Classic"というネーミングとマッチしています。国外のウレタン素材を探している方は是非使用してください。